

4 円滑な接続を目指した授業づくりに向けて



視点1 Small Talk に関わる接続 ～「その場で」から「即興で」へ



学習指導要領の「話すこと」の目標において、小学校では「その場で」、中学校では「即興で」というコミュニケーションにおける重要な視点が示されています。

「言語活動」を通して英語でコミュニケーションを図る資質・能力を育む上で、この二つの違いや各校種における段階を理解することは、連続性のある言語活動を行うことにつながります。即興的に伝える力を育成するため、実際にどのような指導や工夫を図っているかについて、パートナー校間で情報交換しましょう。

■資料② 「その場」と「即興で」とは？（理論編）

- ・学習指導要領が示すポイントや授業づくりの視点が分かります
- ・小学校の「話すこと [発表]」では、整理した上で話すこととしており、中学校段階との違いが見られます。「整理する」学習活動について、紹介します。

https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/kokusairikai/documents/document_2.pdf



■資料③ 「あいづち表現」で接続を図ろう（実践編）

- ・パートナー校間の情報交換における交流内容の実際を紹介します。
- ・「話すこと [やり取り]」において、円滑なコミュニケーションを図るための「あいづち表現」について、校種間の接続を意識した取組が分かります。

https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/kokusairikai/documents/document_3.pdf



視点2 小中のつながりを踏まえた言語活動



小学校の高学年で学習した簡単な語句・基本的な表現や、文字の認識、語順の違いなどへの気付き等に関して、指導した内容を中学校の言語活動において繰り返し活用することによって、自分の考えなどを表現する際に、それらを活用して話したり、書いたりして表現できるよう、授業づくりを図りましょう。

■資料④ 「文構造」と「文法」の指導上のポイント（理論編）

- ・学習指導要領が示すポイントや授業づくりの視点が分かります。
- ・言語活動を通して「文構造」「文法」について意識や気付きを促す授業づくりを図るための、校種間の情報交換の一例をQAで紹介します。

https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/kokusairikai/documents/document_4.pdf



■資料⑤ 言語活動を通じた授業づくりを図るために（実践編）

- ・小学校の既習表現が中学校で再び活用される場面を確認しながら、新出表現を組み合わせる言語活動を行うことが分かります。
- ・類似した場面を発展的に扱う言語活動において、コミュニケーションの目的や場面、状況や学習活動、パフォーマンステスト等のつながりの例を紹介します。

https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/kokusairikai/documents/document_5.pdf



令和4年度札幌市英語教育改善プラン会議 推進委員会

【推進委員】	あいの里西小学校	高橋 文	教諭	あいの里東中学校	小野 構大	教諭
	真栄小学校	中島 裕美	教諭	清田中学校	西島 明子	教諭
	平岡公園小学校	川上 大	教諭	上野幌中学校	大谷 尚弘	教諭

【アドバイザー委員】 北海道教育大学札幌校 教授 萬谷 隆一

【事務局】 札幌市教育委員会 指導主事 児玉 麻知子 指導主事 上野 智恵美

令和4年8月発行 札幌市教育委員会

令和4年度札幌市英語教育改善プラン 参考資料①

学習到達目標等の設定における「小中一貫した教育」のポイント

札幌市教育委員会

札幌市では、外国語教育の推進において、「小中一貫した教育」パートナー校間(以下、「パートナー校間」という。)で、子ども理解や指導等について教師間の連携・協働を通し、学びのつながりを踏まえた授業づくりを図っています。本資料では、「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の設定を切り口とした取組を紹介しします。

1 自校の、「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標を作成にあたって

各学校において、学習指導要領に基づき、子どもが英語を用いて何ができるかについて、学習到達目標を設定します。その際には、「札幌 CAN-DO スタンダード」や「活用ハンドブック」など、札幌市で作成した資料を御活用ください。



※参考資料 ①「札幌 CAN-DO スタンダード」 ※エクセル版は校務支援システムからダウンロードしてください。
②小・中・高等学校間の連携・接続を図る「札幌 CAN-DO スタンダード」活用ハンドブック

2 パートナー校間の連携のステップ

自校で作成した学習到達目標をパートナー校間で共有し、情報交換を通して、子ども理解や指導等を理解し合うことが学びの連続性を意識した指導につながります。次の3つのステップを参考にし、取り組みましょう。

Step 1 教師がつながる「情報交換」



小学校の外国語活動・外国語科と中学校の外国語科の指導担当者が連携し、自校の「CAN-DO リスト」を共有しましょう。

Step 2 授業参観等で「交流」



パートナー校間で互いの授業を参観し、子ども理解を図り、学習内容や指導方法、教材等について交流しましょう。

Step 3 指導の工夫を図る「カリキュラムの連携」



小学校で経験した活動を中学校で行ったり、教材を活用したりするなど、系統性・連続性のある指導の工夫をしましょう。

Step2 パートナー校間を円滑につなぐ交流のために…



小学校の先生

- 学習内容
- 指導方法
- 教材

の三つの視点で、交流しましょう。

チャンツや歌を通じた学習のほか、独自に作成したピクチャーカードを提示しながら発音する活動をしています。
カードでは、文字よりも絵を大きくしています。卒業生には、Picture Dictionary は中学生になっても使えそうだと伝えています。

配付された小学校の教科書を見ました。Picture Dictionary がついているんですね。授業ではどのように新出単語について指導していますか。

Picture Dictionary は中学校でも使えそうだとおっしゃってくださったので、生徒が自宅保管していたので、引き続き中学校でも授業で使っています。



中学校の先生

学習到達目標「CAN-DO リスト」を切り口としながら、次のことについて交流するとよいでしょう。

- 【話題例】
- ・教科用図書 ・学習者用デジタル教科書
 - ・教材 ・1人1台端末 ・歌やチャンツ
 - ・言語活動 ・パフォーマンステスト
 - ・クラスルームイングリッシュ

■資料① パートナー校間における交流（実践編）



- ・パートナー校間の交流の例を紹介します。
 - ・左の話題例を参考に交流を図りましょう。
- https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/kokusairikai/documents/document_1.pdf

(1) 学習到達目標の設定やパフォーマンス評価について、交流しましょう。

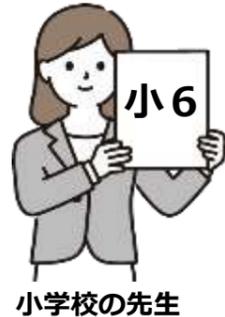
学習
内容



- 小学校卒業期から中学校1年への接続において、段階的な目標設定になっているか。
- どのような話題について言語活動を行っているか。
- パフォーマンステストはどのように実施しているか。(評価の観点・実施方法・頻度など)

市内のパートナー校間で、実際に作成した資料です。

右上のポイントを参考としながら、実際にパートナー校間で交流しましょう。



小学校の先生

領域	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと	CEFR
目標	・小学校生活の思い出・中学校生活や将来の夢について、 ゆっくりはっきりと話されれば 、内容を理解することができる。	・小学校生活の思い出、中学校生活や将来の夢についての英文を声に出して読み、 授業で学習した言葉や表現の意味を理解 することができる。	・小学校生活の思い出、中学校生活や将来の夢について、自分の考えや気持ち、感想などを、 授業で学習した言葉や表現を使って伝え合う ことができる。	・小学校生活の思い出や中学校生活や将来の夢を、 授業で学習した言葉や表現を使い 、したことや感想を含めて発表することができる。	・小学校生活の思い出や中学校でしてみたこと、将来の夢などを、 例文やピクチャーディクショナリーを見ながら書く ことができる。	PreA1 英検5級 準備
パフォーマンステスト等 関連単元	★小学校生活思い出スピーチ ★夢宣言スピーチ 【U7、U8、CYS3】	★小学校の思い出アルバム ★寄せ書きメッセージ 【U7、U8】	★スピーチの感想を 伝え合う 【U7、U8】	★小学校生活思い出スピーチ ★夢宣言スピーチ 【U7、U8、CYS3】	★小学校の思い出アルバム ★寄せ書きメッセージ 【U7、U8、CYS3】	



中学校の先生

領域	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと	CEFR
目標	・ラジオを聞いて、何について放送されているのか理解することができる。 ・ 簡単な指示や依頼を聞き取り、応じ ることができる。 ・短いメッセージやアナウンスの 重要な部分を把握 することができる。	・ポスターやカタログを読んで 大まかな内容を理解 することができる。 ・公共の施設にある 簡単な表示、掲示を理解 することができる。 ・物語を読んで、 場面の变化や登場人物の心情などを理解 することができる。	・ 簡単な自己紹介、他者紹介 をすることができる。 ・自分の興味のあることや調べたことについて、 簡単な発表 をすることができる。	・店員に必要な情報だけを 伝達しながら、買い物 をすることができる。 ・名前や年齢など身近な内容について、 質問 することができる。	・1日に起きたことについて 簡単にまとめ、日記 を書くことができる。 ・ホテルの受付用紙に名前や住所など 自分の情報を正確に書く ことができる。 ・家族や友人に、その日あったことなどについて の手紙を書く ことができる。	A1 英検5級
パフォーマンステスト等 評価材料 関連単元	★対話形式のパフォーマンステスト ★ワークシート ★リスニングテスト、面接など 【Let's Listen 1】 【Let's Listen 2】 【Let's Listen 3】	★ワークシート ★レポート ★ペーパーテスト 【Let's Read 1】 【Let's Read 2】 【Unit 7】	★対話・面接形式のパフォーマンステスト 【Let's Talk 4】	★スピーチ 【Stage Activity 2】 【Stage Activity 3】	★ワークシート ★ペーパーテスト ★レポート ★パフォーマンステスト 【Stage Activity 1】 【Let's Write 2】 【Unit11 Unit Activity】	

(2) 授業づくりで大切にしていることや工夫していることについて、交流しましょう。

指導
方法

教材



- 小学校段階で、音声で十分に慣れ親しむために、どのような活動(チャンツ・歌など)や言語活動を行っているか。学習者用デジタル教科書や1人1台端末の活用、ワークシートも話題にしなが、交流しましょう。
- 小学校での学びを踏まえ、中学校1年の段階で指導の工夫が図れそうなことについて、話し合うとよいでしょう。

【聞くこと】



小学校では「**ゆっくりはっきりと話された英語**」から、具体的な情報を聞き取る活動をしてきました。

【読むこと】



小学校では、**音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や、基本的な表現に限って**、意味が分かるように読む活動をしています。

【話すこと [やり取り] [発表]】

あいづちや質問など、英語でのやり取りや発表の場面で繰り返し使われる**基本的な表現は、十分に慣れ親しんでいる**と思います。

【書くこと】



小学校では、**音声で十分に慣れ親しんだ表現に関してのみ、例文を参考にしたり、写したりしながら**、書く活動をしています。

身近な話題、聞き取る英語の速さがカギですね。では、中学校でも、**小学校で扱った身近で簡単な表現に触れる機会を大切に**することから始めるとよさそうですね。

慣れ親しんだ表現について、語の連結による音の変化、語のつながり、強勢などに徐々に意識を向けもらい、**学年末段階では「自然な速度に近い音声」**を聞けるようにしていきたいです。



なるほど。それでは中1では、**小学校で学習した表現を多く含んだ文章から読み始めると「分かる」「できた」と子どもが感じられ**そうですね。**新しい表現も、音声をしっかりインプットしてから読むと、読むこと**に対しての抵抗が少なくなるかもしれませんね。

学年末段階の目標は、**短い文章の概要や要点を捉えること**ですので、逐語的に読むのではなく、必要な情報を把握しながら読む活動にも挑戦していきたいです。

やはり、そうですね。言語活動での子どもの様子から、あいづちを自然に使っているのが分かります。**小学校でどのようなあいづちや表現を使っていたか教えていただいて、授業でも扱いたい**と思います。

やり取りで使うあいづち、または発表に、**小学校で学習した表現も使って**みようと思図的に働きかけることで、**中学校の「即興性のある」活動に上手く繋げることができる**かもしれませんね。



慣れ親しんでから書くという段階が大切ということですね。それでは、中学校の教科書で「**小学校で既習**」として扱われている単語は、**音声で振り返ってから書く**という学習の流れが子どもにとって自然ですね。**単語の綴りを覚えるというのも、音声から段階的に進めると、子どもは学びやすい**のですね。

中学校でも、**関心のある事柄や、自分の気持ちや考え、その理由などについて書けるようになる**ことを目標にしているので、「**自己関連性の高い内容**」から書けるようになるといいです。そのために日々の言語活動で、**いかに自己関連性の高いものに触れるか**が大切ですね。